

各位

2026 年 1 月 16 日
株式会社エルテス
(証券コード：3967 東証グロース)

「2026 年 2 月期第 3 四半期 決算説明動画」および スクリプトの公開のお知らせ

「安全なデジタル社会をつくり、日本を前進させ続ける。」をミッションと掲げる、株式会社エルテス（本社：東京都千代田区、代表取締役：菅原貴弘、証券コード：3967、以下「エルテス」）は、個人投資家・機関投資家・アナリスト向けに、2026 年 2 月期第 3 四半期決算説明動画を公開しましたので、ご報告いたします。



■ご視聴方法

以下、エルテスのコーポレートサイトより、ご覧いただけます。

決算説明動画ライブラリ：<https://eltes.co.jp/ir/library/video>

（スクリプトは、次ページ以降に記載しております）

<参考情報>

「2026 年 2 月期第 3 四半期決算短信」は[こちら](#)

「2026 年 2 月期第 3 四半期決算説明資料」は[こちら](#)

なお、後日、決算 FAQ の公開も予定しております。



[エルテスグループ関連サイト]

デジタルリスク対策サービス一覧：<https://eltes-solution.jp/>

採用情報：<https://eltes.co.jp/recruit>

公式オウンドメディア「エルテスの道」：<https://eltes.co.jp/ownedmedia>

公式 X（旧 Twitter）：https://x.com/eltes_irpr

■決算説明（スクリプト）



株式会社エルテスの 2026 年 2 月期第 3 四半期の決算説明を始めます。

取締役副社長の伊藤豊です。

どうぞよろしくお願いいたします。

**下期偏重のDX推進事業を除くと、営業利益は進捗率90%超で計画を上回って推移
DX推進事業も4Qは急回復し、連結全体は業績予想の範囲内で着地予定**

2026年2月期 営業利益進捗

（単位：百万円）	第1四半期 実績	第2四半期 累計実績	第3四半期 累計実績	通期 業績予想	通期業績見通しのポイント
連 結 全 体	44	92	93 <small>（前年同期比+85%）</small>	380	■ 堅調な3事業（DX推進以外）に、進捗が 劣しくないDX推進が、4Qに大きく回復
連 結 （DX推進除く）	115	212	351	380~400 <small>（当初想定：370）</small>	■ DR事業は、堅調に推移（成長投資も実行） ■ オフィス移転検討中のため、それらのコストを想定
D X 推 進	▲71	▲120	▲257	▲20~0 <small>（当初想定：10）</small>	■ 4Q計上の大型取引に向けて契約進行中 ■ 下期偏重によるノイズも多く、ポートフォリオ戦略 の中でカーブアウトを検討（詳細は次ページ）

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

1

まず初めに、通期業績の見通しについて説明します。

DX 推進除く連結は、3Q 期間も順調に 1.4 億円の営業利益を積み上げて、3Q 累計で 3.5 億円となりました。連結全体の通期業績予想は営業利益で 3.8 億円ですので、進捗率で 90%超と想定を上回る形で好調な推移となっております。

一方で、DX 推進事業は、もともと 3Q 期間まで赤字想定ではありましたが、想定よりも赤字幅が大きくなっております。3Q 期間だけで約 1.4 億円の赤字ということになり、DX 推進事業以外で積み上げた営業利益をほぼ相殺する形となっております。3Q 期間を見ると、営業利益の積み上げはほぼない状態となっており、営業利益で 93 百万円となっております。それでも、前年同期比でみると+85%と大きく伸びています。

ここだけみると、通期の業績予想とは大きくギャップがある状態ではありますが、DX 推進事業が 4Q 期間で計上予定の大型取引の契約が進行中であり、（DX 推進事業の）通期の着地については損益ゼロの水準に近いところまで急回復する見込みでいます。これらを総合して考えると、連結全体の通期業績予想である営業利益 3.8 億円は達成可能であると考えております。

最短で来期から連結除外となるスケジュールでカーブアウト（事業売却）の検討開始
グループ業績の収益性向上で、企業価値向上にもつながる想定

カーブアウト（事業売却）検討開始の背景

- 1 収益性、優位性の観点から、デジタルリスク事業をコア事業として、経営リソースの投下を推進（DX推進事業の優先度が下がる）
- 2 下期偏重のJAPANDX社の事業特性が、グループ全体の進捗率を見えにくくしている
- 3 JAPANDX社は、IPOへの意向もあり今後も成長投資を継続、また親子上場の懸念からカーブアウトを以前より想定

DX推進を除いた場合の3Q累計業績

	売上高	営業利益	営業利益率
グループ連結業績	65.6億円	0.9億円	1.4%
DX推進除いたグループ連結業績	52.6億円	3.5億円	6.7%

© 2004-2020 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード39967）

2

続いて、経営方針のアップデートに伴う大きな意思決定をしております。

今回の決算発表と同時に適時開示も出しておりますが、DX 推進事業をカーブアウトする、つまり事業売却することを取締役会で決議し、具体的に検討を開始しております。

DX 推進事業がカーブアウトされることで、連結全体で営業利益率も現在の 1.4%から 6.7%へと大幅に向上します。収益性が上がっていく点と、四半期での利益進捗も大幅に改善されるため、ボラティリティが大きく下がります。そうすることで、企業価値向上にもつながると考えております。

今回の意思決定の背景について、もう少し詳しく説明しますと、ひとつには、収益性・競合優位性の高いデジタルリスク事業をコア事業として経営資源を集中していく方針が背景としてあります。

そして、DX 推進事業を担う JAPANDX 社が下期偏重で、今回 4Q にもかなり偏重していますが、グループ全体の利益進捗を見えにくくしていることに強い課題感がありました。

そして、JAPANDX 社自体は、もともと IPO を目指す前提であったこともあり、いずれカーブアウトしていく想定でもありました。エルテスの連結子会社の状態では成長投資もしにくいという点、そして、親子上場への懸念も高まってきていますので、このタイミングでカーブアウトする意思決定をしました。

- 1 経営方針のアップデート
- 2 業績説明/2026年2月期 第3四半期
- 3 ビジネスアップデート
- 4 Appendix

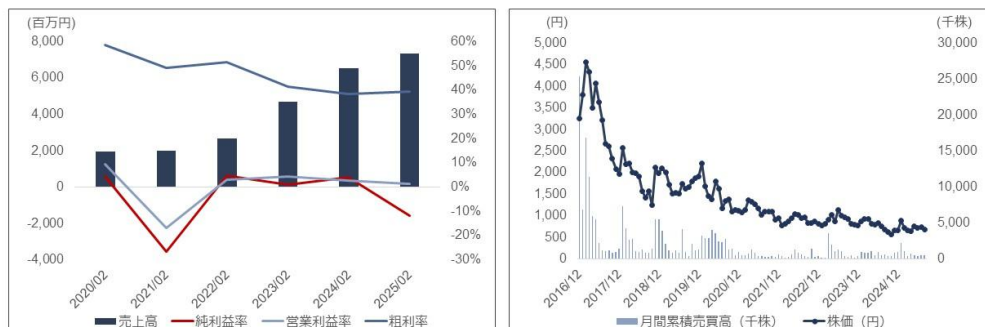
ここから先は、昨年来から説明しております経営方針のアップデートについて、そして 3Q の業績説明の詳細、それぞれの事業セグメントのビジネスアップデートについてお話していきます。

1

経営方針のアップデート

経営方針のアップデートです。

- ▶ 売上高は右肩上がりの成長も、粗利率は低下し、営業利益率も低迷。子会社業績が純利益にも影響
- ▶ 結果として、時価総額は右肩下がりで、ピーク時の200億円台から40億円台を推移
- ▶ 東証グロース市場改革もあり、2030年までに時価総額100億円超への変革が急務



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

5

振り返りと現状認識についてです。

改めまして売上高は右肩上がりで成長してきましたが、営業利益率は低迷し、のれん等の減損などもあり、純利益は赤字転落する期もありました。ボラティリティが大きく、そういったこともあり株価も低迷してきたと認識しています。

**多角化して凡庸化した部分を思い切って再構築（撤退・縮小）し、
エンブラ向けリカーリング収益中心の独自性・優位性のあるコア事業中心の
デジタルリスク／セキュリティ銘柄として市場から再評価・認識されることを目指す**

なぜ株価が低いのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・多角化したことで何の会社かわかりにくくなっている ・独自性・優位性のある高利益・高成長・市場シェアNo.1[※]の「宝」事業（IRI）があるのに隠れてしまっている（隠れセキュリティ銘柄） ・エンブラ向けリカーリング収益中心で強固な基盤のコア事業があるのに、他のセグメントが利益率を押し下げて凡庸な会社に見えてしまう ・減損処理や業績の下方修正も頻発し市場からの信頼・注目が低下
こうすれば株価上がるはず	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルリスク／セキュリティ領域に特化したセキュリティ銘柄としてリブランド ・ソーシャルリスク領域も炭上に加えて認知・情報戦対策にも拡張 ・市場シェアNo.1（UEBA運用監視サービス市場）[※]のIRIの事業成長をさらに加速して強化 ・赤字セグメントからの撤退・売却を実行し、全社利益率を向上（特に四半期の下期偏重要素の大きい事業からの撤退は急務） ・予実管理や計画策定の精度を上げるとともに、エンブラ向けリカーリング収益中心のコア事業に集中することで利益のボラティリティを排除

※出典：ITR ITR Market View：エンドポイント・セキュリティ対策型／情報漏洩対策型SOCサービス市場 2025JUEBA運用監視サービス市場：ベンダー別売上金額シェア（2024年度）

そうした背景で企業価値向上に向けた変革が急務という認識を持っております。多角化して凡庸化した部分を思い切って再構築していきます。

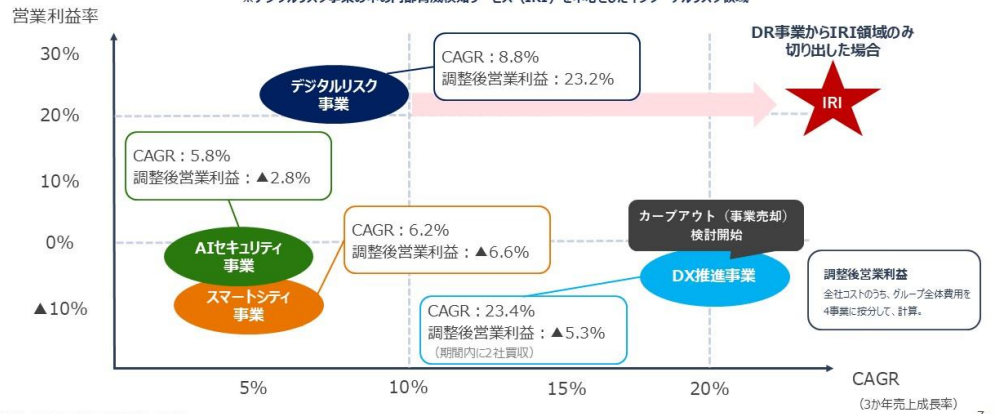
コアとなる事業は、エンタープライズ向けのリカーリング収益中心で、とても独自性・競合優位性のあるデジタルリスク事業であると認識しています。いろいろやっている会社ではなく、改めて、デジタルリスク／セキュリティの銘柄として市場から再認識・再評価されることを目指していきます。

12月に発表した方針ですが、すでに実行中のものがあります。

「セキュリティ銘柄としてのリブランディング」、「市場シェアNo.1（UEBA運用監視サービス市場でNo1）」ということを発表しておりますが、IRI というサービスへの事業成長、成長投資を実行中です。「ポートフォリオの再編」というところも、3Q まで大きな赤字を出している DX 推進事業セグメントのカーブアウトを意思決定して推進しています。

デジタルリスク事業の収益性の高さが際立つ
特にIRI領域[※]は、CAGRは25.0%と高い成長を誇る

※デジタルリスク事業の中の内部脅威検知サービス（IRI）を中心としたインターナルリスク領域



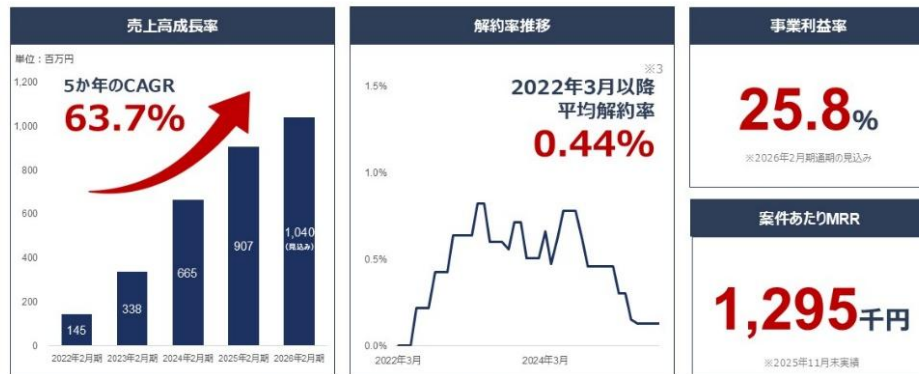
ポートフォリオ再編に向けて現状の事業セグメントを成長率と利益率でマッピングしています。

デジタルリスク事業は営業利益率が高く、その中でも、IRI は、成長率も高いです。このデジタルリスク事業への成長投資を強化して、コア事業として磨き上げていくことが重要と考えています。

右下の DX 推進事業はカープアウトを今回意思決定しています。

左下の AI セキュリティ、スマートシティについても今後利益率向上の取り組みや成長可能性を探りながらも、今後のポートフォリオ再編の動きの中で位置づけを検討していくということを考えています。

UEBA運用監視サービス^{※1}でトップシェア^{※2}獲得の
内部脅威検知サービス（IRI）を中心に会社のリブランディングを進める



※1 UEBAは「User and Entity Behavior Analytics」の略称で、ユーザーとエンティティの行動を分析し、異常な振る舞いを検知するサービス
※2 出典：ITR/ITR Market View：エンドポイント・セキュリティ対策型/情報漏洩対策型SOCサービス市場 2025JUEBA運用監視サービス市場：ベンダー別売上金額シェア（2024年度）
※3 毎月の総案件数に対する解約率を、過去12ヶ月平均で算出

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（登録コード3967）

8

デジタルリスク/セキュリティ特化のリブランド戦略を推進していきます。

UEBA 運用監視サービス、「User and Entity Behavior Analytics」という、ユーザーとエンティティの行動を分析して、異常な振る舞いを検知するという「振る舞い検知」と呼ばれているサービスでトップシェアを獲得しています。

まだまだ、市場自体が小さく、これからさらに大きくなる市場で、まだ認知が足りないと思いますが、内部不正や情報の持ち出しのニュースも世の中で増える中で、不正競争防止法によって逮捕者が出るケースも出てきています。市場ニーズや社会的関心は大きくなる一方だと認識しています。

実際に、エルテスの IRI の売上成長率も 5 年の CAGR で 63.7%と大きく成長しています。そのうえ、解約率についても、平均 0.44%と低い水準で推移しております。

**内部不正対策のマーケットリーダーを目指し、
内部脅威検知サービス（IRI）強化施策を順次実行**
(2025年10月公表からのアップデートを記載)

提供サービスの標準化/品質の向上	営業マーケティング手法のアップデート
<ul style="list-style-type: none"> ■ 開発体制の強化 実行中 ■ カスタマイズ受け入れルール（サービスの標準化）の整備 実施完了 ■ AI活用による判定精度の向上 実行中 ■ Webポータルアップデート（操作性を含めたUI/UXの改善） 実行中 ■ CS（カスタマーサクセス）機能の立ち上げ 実施完了 ■ 検知ロジック（リスクシナリオ）のアップデート強化 実行中 ■ 組織の評価指標の見直し 追加検討 ■ 研究組織の設立 追加検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業パーパスの策定から一貫したマーコムの実践 実行中 ■ マーケティング専門人材補強、リソースも増強 実施完了 ■ 展示会/イベントへの出展強化 実行中 ■ アナリストブログ（不正事例研究）の立ち上げ 準備中 ■ 調査レポート等の権威性を活用したマーケティング活動 追加実行中 ■ セキュリティ業界団体での活動加速 追加実行中 ■ IRIブランドの再定義 追加検討 ■ メディア向けプロモーション体制の強化 追加検討

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

9

今後も内部不正対策市場のマーケットリーダーを目指して、IRI のサービス・品質の向上、営業マーケティングの向上に取り組んでいきます。

前回、昨年 10 月公表時点から進捗があるものについて記載しております。

サービスの標準化やカスタマーサクセス機能の立ち上げ、マーケティング専門人材の補強、チーム拡充について、すでに実行完了しております。他にも、開発体制の強化や AI 活用による精度向上、展示会・イベントへの出展強化や、セキュリティ業界団体での活動などにも着手しています。

2

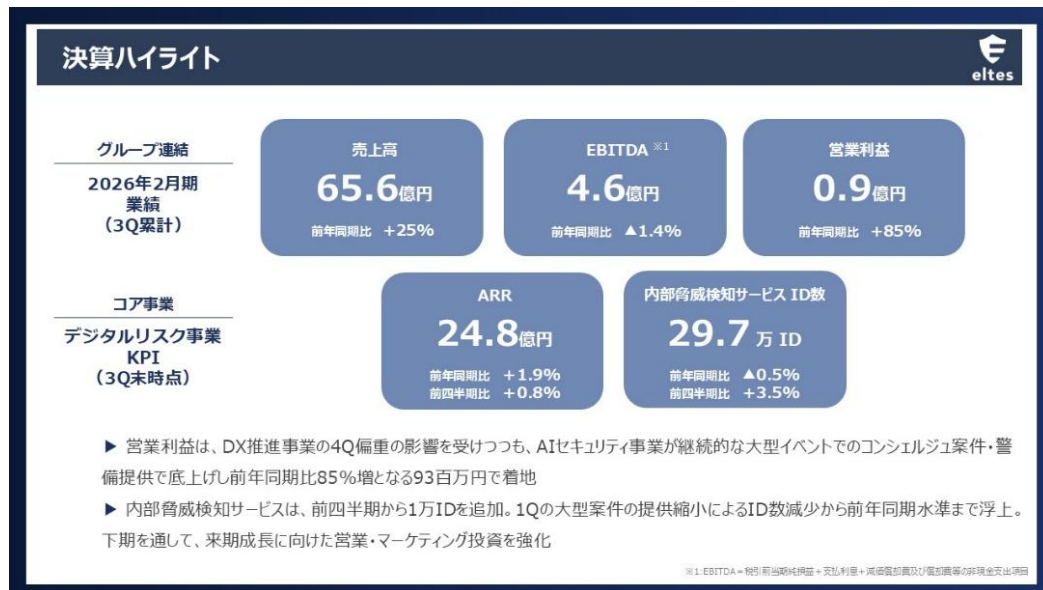
業績説明

2026年2月期 第3四半期



10

ここから 3Q の業績の説明に入ります。



決算ハイライトです。

前年同期比では、売上+25%、営業利益+85%と大きく伸びております。

営業利益のところは、DX 推進事業が大きな赤字を抱えているため、その他事業の好調ぶりが見えにくくなっておりますが、全体として、D X 推進以外、好調に推移して想定を上回る水準で来ております。

コア事業であるデジタルリスク事業の ARR（Annual Recurring Revenue）も成長しております。

IRI の ID 数も、3Q 期間でアップセルで 1 万 ID を追加しております。期初に大型案件で ID 数の縮小がありまして、前年比マイナスで推移していましたが、ほぼ前年同期水準に回復しつつあります。

**DX推進事業の4Q偏重の影響（3Q時点で約2.5億の赤字）が響くも
他セグメントの計画以上の進捗が業績を支え、連結全体では営業利益0.9億の黒字**

(単位：百万円)	2025年2月期 第3四半期実績	2026年2月期 第3四半期実績	前年同季比	通期業績予想	進捗率
売上高	5,235	6,567	+ 25.4 %	8,200	80.1 %
EBITDA※1	469	462	▲ 1.4 %	750	61.7 %
営業利益	50	93	+ 85.8 %	380	24.6 %
純利益	▲41	12	—	170	7.6 %

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード：39967）

※1: EBITDA = 税引前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費及び償却費等の非現金支出項目

12

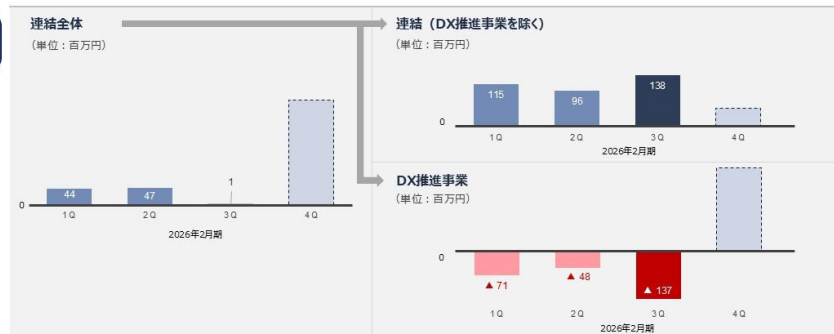
通期業績予想に対する進捗は、売上は 80%超と好調ですが、営業利益は 24.6%となっており、3Q時点では、なかなか達成が難しいように見えるかもしれません。この通期の見通しのところは、改めて DX推進事業とそれ以外の連結を区別してみていただくと状況がわかりやすくなります。そちらをお見せしながらお話しします。

DX推進事業の4Q偏重が影響し、連結全体でも4Qの急伸を見通す DR事業・AIS事業・SC事業は計画を上回って堅調に積み上げ

見通しのポイント

- ▶ 保守的に見積もっていたAIS事業・SC事業で、計画を上回って推移（DX推進事業を除くと営業利益は進捗率90%超）
- ▶ DX推進事業は、4Q計上の大型取引に向けて契約進行中で、DX推進事業の通期営業利益は、当初計画の水準程度を想定

四半期別 営業利益推移



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

13

DX 推進事業が極端に 4Q 偏重となり、4Q 期間にて損益基準、黒字水準まで挽回する見込みです。現在、大型取引の契約を進行中であるため、急回復していく見通しで、DX 推進事業としては 4Q で大きく利益を上げる予定です。

一方で、DX 推進を除く連結というところで見ると、1Q～3Q までの利益に比べると、少し控えめに 4Q の利益を見積もっています。その理由としては、デジタルリスク事業における成長投資を実施していく点、そしてオフィス移転関連の一時的な費用なども少し計上を予定しています。株主優待費用も 2Q に引き続き 4Q でも計上する予定であります。そういった一時的なコスト増もありまして、4Q の利益については保守的に見積もっております。

業績説明 | 2026年2月期 第3四半期業績ハイライト (セグメント)



		2026年2月期 第3四半期実績 (前年同期比)	業績予想 2026年2月期 (進捗率)		ポイント
連 結	売上高	6,567百万円 (+1,332百万円)	8,200百万円 (80.1%)		▶ DR事業は、堅調に推移
	営業利益	93百万円 (+43百万円)	380百万円 (24.6%)		▶ AIS事業、SC事業が計画を上振れて推移 ▶ DX推進事業は、4Qに急回復
デジタルリスク 事業 (DR事業)	売上高	2,034百万円 (+184百万円)	2,800百万円 (72.7%)		▶ 解約率低さが、業績に大きく貢献
	営業利益	749百万円 (+106百万円)	1,050百万円 (71.4%)		▶ 一方で、IRI、SRともに営業マーケティングの テコ入れで、新規獲得に注力
AIセキュリティ 事業 (AIS事業)	売上高	1,719百万円 (+516百万円)	1,800百万円 (95.5%)		▶ 警備保障領域が、業績を大きく牽引
	営業利益	57百万円 (+81百万円)	20百万円 (286.6%)		▶ 警備DX領域は、コンシェルジュプランが成長 するも赤字推移
DX推進 事業	売上高	1,298百万円 (+95百万円)	1,800百万円 (72.1%)		▶ カーブアウト検討開始、最短2026年3月から 連結除外を想定
	営業利益	▲257百万円 (▲253百万円)	10百万円 (－)		▶ 当初計画の水準程度の着地を想定
スマートシティ 事業 (SC事業)	売上高	1,612百万円 (+553百万円)	1,800百万円 (89.6%)		▶ アクター社の業績が上期に続き堅調推移
	営業利益	25百万円 (+108百万円)	0百万円 (－)		▶ PM事業の黒字推移に加えて、不動産売買/ 仲介で営業利益を積み上げ
全社費用 (共通管理)		481百万円 (▲0百万円)	700百万円 (68.7%)		▶ 計画通りに推移、4Qは株主優待費用発生

© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード3967)

14

セグメント別のハイライトです。

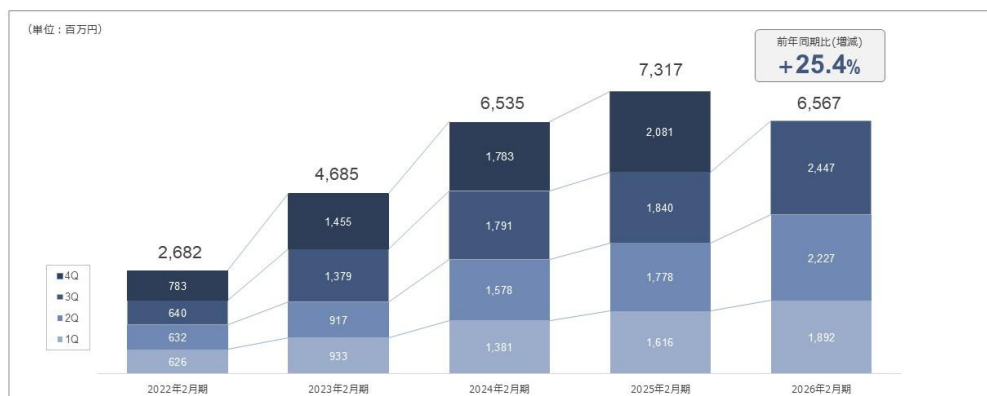
DX 推進事業の赤字が想定よりも大きい形で推移しているものの、他事業については、想定よりも上で推移していることがわかりいただけるかと思います。

業績説明 | 連結決算概況【売上高】



通期業績と進捗 | 売上高

AIS事業・SC事業がトップラインを大きく牽引

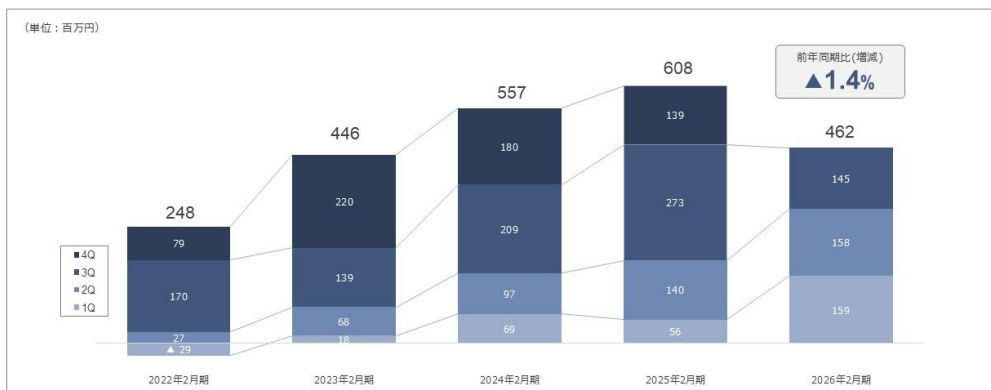


© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード3967)

15

売上推移です。今期の売上成長については、AI セキュリティ、スマートシティの 2 つのセグメントで大きく成長率を出しており、その貢献が大きいと認識しております。

DX推進事業の業績進捗が影響し、前年同期比で微減

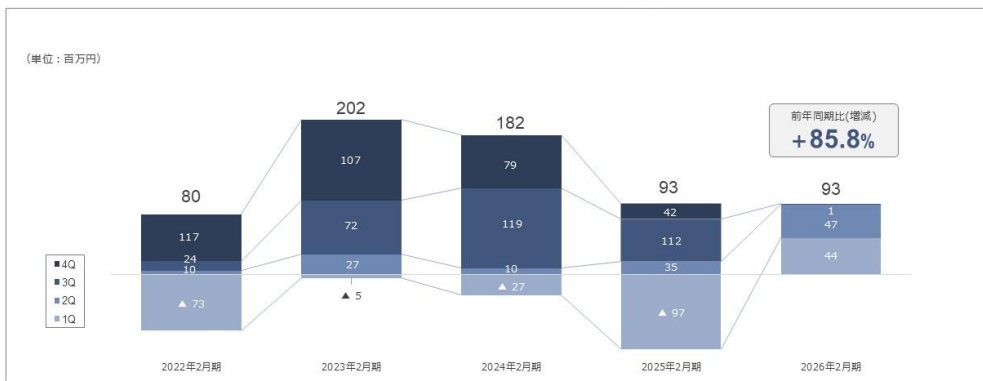


© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード3967)

16

EBITDA の推移です。3Q の EBITDA は、DX 推進事業が想定よりも大きい赤字となったため、減少しています。それにより、3Q 累計期間でも前年比微減となっております。

DX推進事業の業績進捗が影響するも、4Qでの積上を想定



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード3967)

17

営業利益の推移です。

DX 推進の赤字とその他事業の黒字が相殺されてしまっており、3Q 期間ではほぼ利益の積み上げができておりませんが、昨年の通期の営業利益の水準にまではすでに来ており、4Q に DX 推進が急回復して利益を積み増す部分も想定すると、通期では過去最高の営業利益となる見込みです。



最後に各セグメントのビジネスアップデートです。



デジタルリスク事業です。

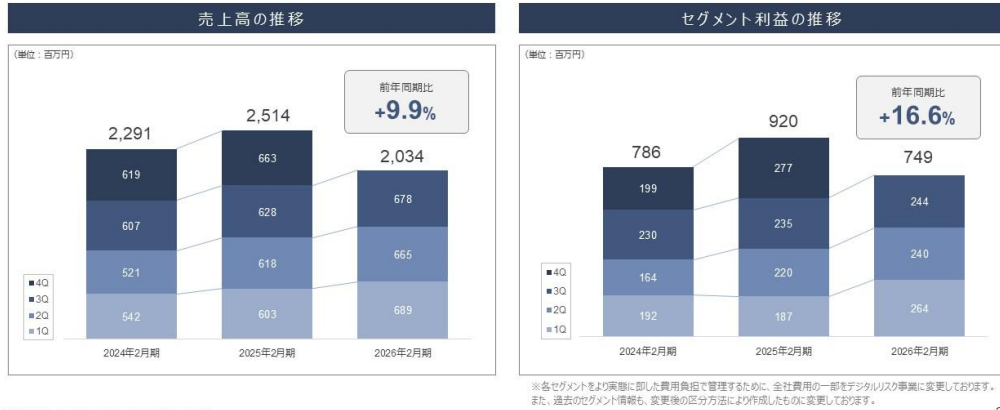
ARRと内部脅威検知サービス IRI の ID 数については、ご覧のような目標を追いかけており、現状まで来ております。

インターナルリスク領域では、値上げの価格改定ができており、提供体制の標準化や品質向上も推進してきております。ソーシャルリスク領域では、海外展開を行う企業様から SNS の外国語監視に対するニーズの受注も増えています。新規営業組織を集約して生産性向上にも着手しています。

ビジネスアップデート | デジタルリスク事業の売上高・セグメント利益



- ▶ 新規MRR積み上げに苦戦するも、解約率の低さが業績を支え、前年同期比から成長
- ▶ IRIは、売上高拡大のために品質標準化に加えて、営業マーケティングの見直しも推進



売上成長は+9.9%、セグメント利益も+16.6%増と順調に前年同期比で成長しています。新規のMRR（Monthly Recurring Revenue）の積み上げは苦戦しているものの、解約率は低く抑えられているところもあり、業績に貢献しております。IRIは、標準化・品質向上の取り組みに加えて、営業マーケティングのやり方を変えて、活動自体も強化しております。

ビジネスアップデート | AIセキュリティ事業



UPDATE

- ▶ 警備保障領域の上期から続く、関西の大型イベントが業績に大きく貢献
- ▶ 福島を拠点とする東和警備社の立ち上げは、計画通りに進行
- ▶ 国際スポーツイベントへの警備提供をはじめとした、コンシERGEプランの積み上げで、警備DX領域の黒字化を推進

セグメントKPI

警備員数

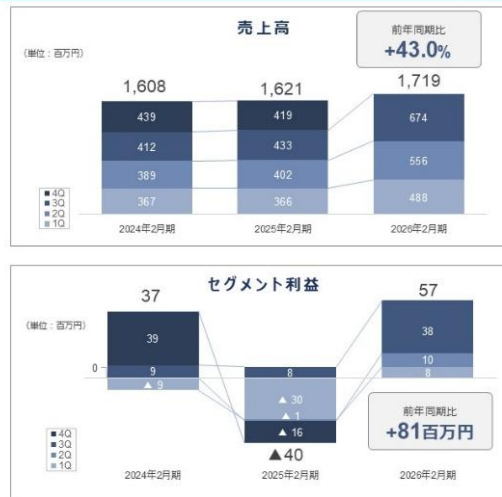
400人 / 420人

25年11月時点 実績
26年2月時点 目標

警備会社クライアント数

349社 / 350社

25年11月時点 実績
26年2月時点 目標



続いて、警備の領域を扱うAIセキュリティ事業です。

売上は+43%、セグメント利益も+81百万円と想定を上回る好調ぶりです。関西の大型イベントだけではなく、季節ごとの大型イベントの警備を包括的にサポートする取り組みが好調です。また、福島の東和警備の立ち上がりも計画通りとなっております。

UPDATE

- ▶ 大型案件の遅延等で売上高の進捗は想定からビハインドも、4Q計上の大型取引に向けて契約進行中
- ▶ 防災機能（防災マップ・避難所受付等）を搭載したDX-Pand for 防災、スマート公共ラボ AIコンシェルジュのニーズは高い
- ▶ SES人材の獲得は、順調に推移

セグメントKPI

SES月間稼働人月

106人月 / 100人月
25年11月時点 実績
26年2月時点 目標

取引自治体数

178自治体 / 200自治体
25年11月時点 実績
26年2月時点 目標

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（登録コード3967）



次に、自治体 DX などを扱う DX 推進事業です。

売上+8.0%、セグメント利益はマイナス 2 億 53 百万円と前年同期よりも赤字先行となり、想定よりも 3Q までの赤字が膨らんでいる状態です。4Q で一気に取り戻す計画である点は、これまで話したとおりです。

大型取引の契約を進行中で、4Q で通期損益ゼロのラインまでは急回復する見込みです。アプリの防災機能やスマート公共ラボ AI コンシェルジュなどのニーズは高い状態です。SES の稼働人月についても順調に推移しています。

UPDATE

- ▶ アクター社の業績がスマートシティ事業のセグメント利益を牽引
- ▶ プロパティマネジメント領域は、管理戸数を維持しつつ、内製で業務の自動化・デジタル化で収益性向上を目指す
- ▶ 3Q期間で不動産売買・仲介の売上高292百万円を計上、セグメント利益にも貢献

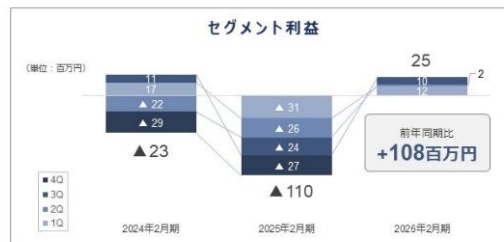
セグメントKPI

MRR

96.9 百万円 / 100 百万円

25年11月時点 実績 26年2月時点 目標

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (登録コード3967)



最後に、不動産領域等を扱うスマートシティ事業です。

売上+52.2%、セグメント利益+1 億 8 百万円と想定を上回る好調となっています。内訳としては、アクター社の業績が利益貢献しております。また、プロパティマネジメント領域も、管理業務の内製化を進めており、自動化・デジタル化などを進めています。3Q 期間では不動産売買・仲介の売上も 2.9 億円立っており、こちらも売上・利益の拡大に寄与し始めております。

エルテスグループ成長のための取り組み「エルテスの道」

エルテスを深く理解していただくために、社長の菅原をはじめとした役員・社員へのインタビュー記事やサービスをご支援いただく企業様との対談記事などを掲載しています。

エルテスの道

成長への取り組みを発信する
公式オウンドメディア



10.29 公開

「社内アクティビスト」という新しい経営変革モデルの真意を、取締役副社長に聞く

2025年10月に大胆な戦略転換とともに発表した社内アクティビストチーム組成。その中心の伊藤豊副社長が語る「社内アクティビスト」の役割について紹介。

<https://eltes.co.jp/ownedmedia/20251001>



12.16 公開

「内部不正ゼロ」の未来をつくる—新たなバーパスのもと、チームで育てるIRIの現在地

デジタルリスク事業を支える主力サービス「IRI」。IRI事業の責任者が語る、新たに策定した事業バーパスの経緯やサービスの今後の成長軌道について紹介。

<https://eltes.co.jp/ownedmedia/20251201>



11.26 公開

安全なデジタル社会の実現へ——。日本のリスクマネジメントを担う、日本大学寄付講座「危機管理特殊講義2（デジタルリスク）」の現場から

エルテスが日本大学危機管理学部で開講している講座「危機管理特殊講義2（デジタルリスク）」。これからのデジタル化社会を担う人材育成の取り組みの魅力を紹介。

<https://eltes.co.jp/ownedmedia/20251101>



12.18 公開

働く人を守るために——IRIが強く内部不正対策の未来

過去にラック社で社長を務め、現在はIRIの事業戦略顧問に就任した西本逸郎さんと、IRIの事業責任者を務める川下巧さんが語るIRIの魅力や将来の語を紹介。

<https://eltes.co.jp/ownedmedia/20251202>

最後に、オウンドメディア「エルテスの道」にてエルテスグループの動きについてインタビュー記事等を公開しております。是非ご覧いただけると幸いです。

以上をもちまして、エルテスの3Qの決算説明を終わりたいと思います。

引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。